

心臓血管外科

1. スタッフ（2024年4月1日現在）

科 長（教授）	山口 敦司
医 員（准教授）	岡村 誉
（講師）	谷口 良輔
医 局 長（講師）	中野 光規
病棟医長（助教）	藤森 智成
医 員（助教）	草処 翔
（助教）	和田陽之助（留学）
シニアレジデント	8 名

2. 診療科の特徴

心臓血管外科専門医機構	基幹施設
脈管学会	認定施設
経カテーテル大動脈弁置換術	認定施設
植込み型補助人工心臓	認定施設
ロボット心臓手術	認定施設

外科専門医	：山口敦司他11名
心臓血管外科専門医	：山口敦司他 9 名
脈管専門医	：山口敦司他 4 名
循環器専門医	：山口敦司他 3 名

3. 診療実績・クリニカルインジケータ （2024年の手術実績）

手術症例数	：794例
開心術症例数	：447例

当センター心臓血管外科における2024年診療実績（2024年1月～12月）では、年間794例の手術治療数があり、このうち心臓大血管手術（人工心肺使用開心術、オフポンプ冠動脈バイパス術、胸部ステントグラフト留置）は447例であった。開設以来の当科における診療実績を図1に示す。

緊急処置を要する急性大動脈解離や、胸部および腹部大動脈瘤の破裂例を積極的に受け入れ、診療圏は県内のみならず、東京都、栃木県、茨城県からヘリコプター搬送を含む救急患者を受け入れている。

虚血性疾患に対するバイパス手術、弁膜症に対する弁置換術および弁形成術、胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤、末梢血管の重症虚血肢に対する手術治療成績はいずれも良好である。近年の低侵襲化手術の普及の潮流に乗り、当センターでも、経カテーテルの大動脈弁置換術（TAVI）、ステントグラフト挿入術（TEVAR、EVAR）、小切開心臓手術（MICS弁膜症手術）を積極的に取り入

れ、患者のニーズに対応した診療を提供している。特に弁膜症手術では、小切開心臓手術（MICS）による僧帽弁形成術・大動脈弁置換術の比率が増えている。低侵襲心臓手術に対する地域の医療機関・患者からの要望に応えるべく、2024年にはロボット心臓手術プログラムを導入した。2024年における各疾患別手術治療件数を図2に示す。

これらの手術診療は当センターのみならず、関連した国内派遣病院の各心臓血管外科でも同様に行われ、各施設での診療実績は増加しており、それぞれの地域医療に貢献している。

国内派遣病院：さいたま赤十字病院（5名）、横須賀市立うわまち病院（5名）、春日部中央総合病院（4名）、練馬光が丘病院（4名）、横浜市立みなと赤十字病院（5名）、東京都立墨東病院（4名）、上尾中央総合病院（3名）、筑波記念病院（3名）

4. カンファレンス および学生教育・研修医の修練

学生教育の分野では、必修BSLの学生（4年生）と選択BSLの学生（5年生、6年生）を対象に実際の臨床に即した実地教育を行っている。実習ではモーニングカンファレンスに参加させ、臨床チームの一員としての自覚を持つよう指導している。担当症例を決め、その症例の術前サマリーを報告してもらい、その症例の疾患に関する基礎知識をまとめてカンファレンスでプレゼンテーションしてもらっている。スタッフとともに手術室に入室し、手洗い実習からはじめて、実際の手術も体験させている。手術治療は月曜から金曜まで毎日手術室を3～2室使用して行っているため、豊富な臨床体験が得られる。

研修医教育の分野では、初期研修医、後期研修医（外科新専門医研修制度による）を積極的に受け入れ、診療チームのスタッフに加え、センターおよび関連施設で安全かつ効率的な修練を行っている。初期研修医、後期研修医ともに毎年複数名の応募があり、終了後はさらに修練医として受け入れ、専門教育を行っている。

当センターは、心臓血管外科の研修に関わる学会認定医制度の研修基幹施設認定を受けており、診療領域に関連したあらゆる修練・研修に対応している。専門医資格取得のためのプログラムは当センターと国内派遣病院（関連病院）とで統一的に運用し、毎年複数名が「心臓血管外科専門医」試験を受験し、合格者を出している。継続的に若手心臓血管外科医を輩出している全国でも数

少ない教育・修練施設の1つである。

5. 研究・学会活動

発表論文数：24編(英文論文 17編)

学会発表数：81編(英語発表 5編)

この数年間は毎年、競争的研究資金の取得に成功しており、2024年現在、人工心肺使用時の免疫反応・大動脈二尖弁に関する血行動態評価・大動脈疾患の遺伝子解析、大動脈解離の発生機序に関する研究、サルコペニアと手術成績の関係、植込み型補助人工心臓の在宅管理アプリの開発、などのトランスレーショナルリサーチを、科学研究費のサポートのもとで行っている。

多施設研究では、重症心不全に対する補助人工心臓症例・非移植手術のレジストリー、小切開心臓手術のレジストリー、大動脈解離症例の国際的レジストリー、人工

弁の遠隔成績解析、クラウドを用いた画像転送システムの心臓血管外科救急診療における有用性、など多くの臨床研究および臨床治験に多角的かつ積極的に参加している。

単独施設での臨床研究においても、虚血性心疾患、心臓弁膜症、大動脈疾患、重症虚血肢に対する多数の手術治療経験があり、その99%をフォローして中期および長期遠隔成績を発表している。

海外施設であるスタンフォード大学、ジョンズホプキンス大学に研究員を派遣し、心移植、幹細胞移植、動脈瘤や大動脈解離の分子生物学的研究、遺伝子解析、再生医療の研究などを共同で推進している。

海外留学施設：スタンフォード大学、ジョンズ・ホプキンス大学（各1名）

図1

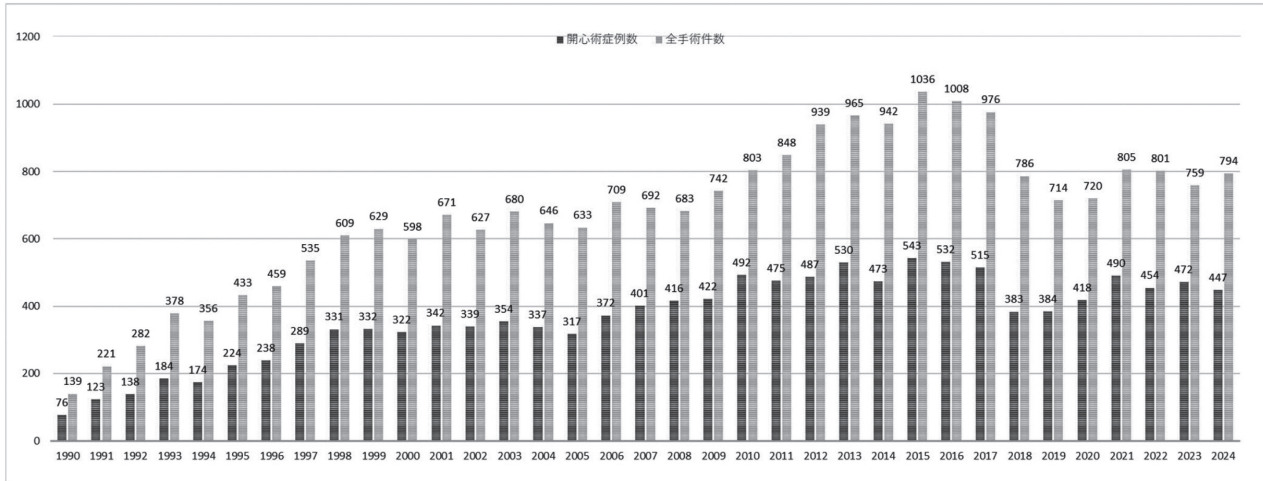
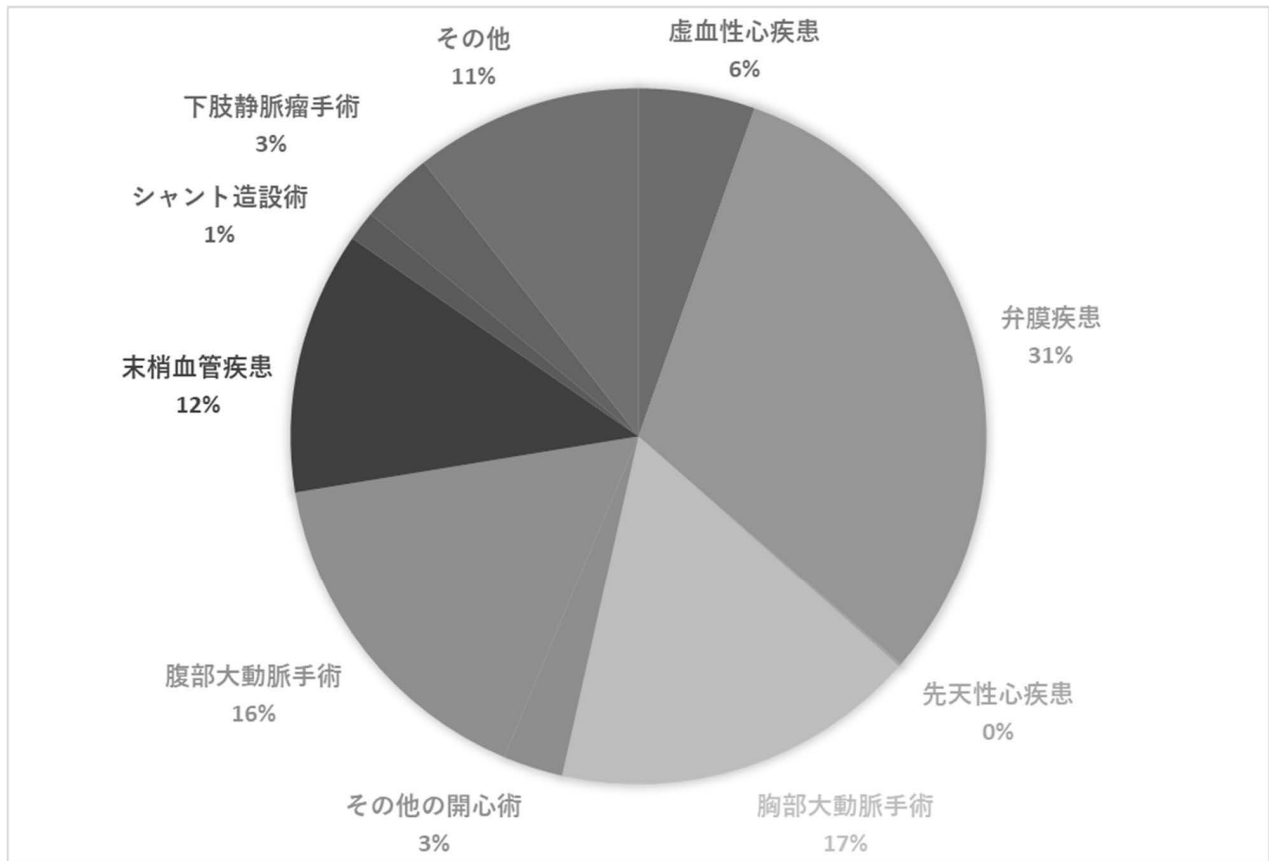


図2 2024年の各疾患別手術治療件数



虚血性心疾患	43例
弁膜疾患	246例
先天性心疾患	1例
胸部大動脈手術	135例
その他の開心術	22例
腹部大動脈手術	128例
末梢血管疾患	97例
シャント造設術	11例
下肢静脈瘤手術	27例
その他	84例